

令和元年6月23日現在

機関番号：47116

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04416

研究課題名(和文) 状況的学習をもちいたソーシャルスキル向上プログラムの提案と効果検証

研究課題名(英文) Proposal and Verification of Social Skills Improvement Program Using Situated Learning

研究代表者

命婦 恭子 (Meifu, Yasuko)

西南女学院大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：00412338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)： 幼児を対象に状況的学習を用いたソーシャルスキルトレーニング(social skills training; SST)のを作成した。商業施設である市場を、コミュニケーション能力を育成する社会資本と見立て、実践の中からスキルを習得することがプログラムの目的である。ソーシャルスキルの本来の学習プロセスは状況的学習によるものであり、SSTもその方法に立ち返ることを提案している。これにより、企画者が準備した働きかけを超える変化がみられた。また、対面でしか起こりえない働きかけが偶然になされることで、双方向的なコミュニケーションが現れており、その状況から新しいスキルを習得していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソーシャルスキルとは対人関係を円滑にするための技術であり、実践の場に参加しながら学習され、学習が深まるとより高度な対人関係の実践が可能となりさらに学習が深まるといように習得されてきた。これを状況的学習と呼ぶ。その一方医療機関などでは、ソーシャルスキルの習得が困難な場合に、実践場面と切り離された守られた環境で、ソーシャルスキルトレーニング(SST)が実施されてきた。さらに、対人関係の実践場面が減少するという社会的要請から教育機関でもSSTが実施されることが多くなった。このように広く活用されるSSTを医療モデルから改変し、状況的学習によるプログラムとして実施したところに本研究の意義がある。

研究成果の概要(英文)： We created a program of social skills training (SST) for young children. The theoretical framework for the program was situational learning. The program that considered a market to be the social capital for social skills training. The purpose of the program is to learning communication skills with practice. The naturally learning process of social skills is based on situated learning.

Situations in the market developed their social skills during accidental interaction. The community of practice for interaction makes it more possible to learn social skills than by situated learning. The program allows participants to take part in the community of practice easily.

研究分野：臨床心理学

キーワード：状況的学習 ソーシャルスキル 幼児期 社会資本

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

#### 1)メンタルヘルス維持におけるソーシャルスキルの重要性

子育て中の親は、産後うつ病や育児不安などによるメンタル・ヘルスの問題を抱えがちであり、子育て中に心理的健康度を保つためには、配偶者のみではなく、複数のサポート源から支援を受けることが有効であるといわれている(西出・江守, 2011)。

対人関係を広げるためには、個人のソーシャルスキルの育成が重要となる。ソーシャルスキルとは、「対人関係における自らの目標達成を目指して、相手に適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的、非言語的な対人反応」と定義される(相川, 2010)。ソーシャルスキルには、対面によるコミュニケーションで修得されることが望ましいといわれている。また、学習のための体験が重要で、その環境が準備されなければならない。核家族化や地域での人間関係の希薄化により、ソーシャルスキルを学習する機会が減少しているが、日本においてこのような問題がいわれるようになって久しく、家庭の教育力だけでソーシャルスキルを学習することが難しいのが現状である。

#### 2)ソーシャルスキルの獲得とその支援方法

ソーシャルスキルの学習について考えるときに、重要な概念の一つに状況的学習があげられる。状況的学習とは、学習者が実践共同体の一部に加わりながら、その共同体の中で実践されている技術や知識を習得していく学習プロセスのことであり、学習を知識や技術を受容して内在化させていくプロセスと考えるのではなく、実践共同体への参加のプロセスとみる考え方である(Lave & Wenger, 1991)。従来のソーシャルスキル・トレーニングでは、日常場面で活用するスキル修得のために、専門家が場を設定して学習者が特定のスキルを意識しながら学ぶという形態が一般的である。これに対して、状況的学習によってソーシャルスキルを学習するということは、地域で日常的に実践されているコミュニケーションに参加し学習するプロセスであり、このような学習機会をえるためには、地域でのコミュニケーションに正統的周辺参加できる糸口を提供することが有効であると考えられる。

#### 3)ソーシャルスキル獲得のための社会資本

対面によるコミュニケーションが活発に行われている場所として、竹川(2013)は、市場の社会資本としての特性に着目している。人と人が対面でコミュニケーションする状況にソーシャルスキルは埋め込まれており、対面コミュニケーションの実践共同体として市場をとらえると、状況的学習によりソーシャルスキルを修得するためのプログラムを実施する場所として市場は適しているといえる。

### 2. 研究の目的

本研究では、状況的学習という視点から、ソーシャルスキル習得のために市場という社会資本で実際に行われている対面コミュニケーションに参加するプログラムを提示する。本プログラムによりソーシャルスキルの習得が期待される対象者は、①プログラム参加者である子育て中の親、②プログラム参加者である子ども、③プログラム実施者である学生の三者である。

状況的学習では、スキルの習得と状況への参加の深まりは、相互に関連している。プログラム実施中の親、子、学生のそれぞれの行動を観察・記録し、市場でのコミュニケーションやプログラムへの参加の程度を分析することでその効果を検討することができる。また、各セッションの内容と参加者の行動の関連を分析することで、テーマ設定やセッションの進行についての精査を行う。学生に関しては、各セッション内容の立案や準備への参加の程度も観察・記録しソーシャルスキルの獲得状況を検討する。

### 3. 研究の方法

#### 1) 対象者

本研究の対象者は、プログラムの参加者である地域に在住する就学前の子どもとその保護者とセッションの実施者である学生である。

#### 2) プログラム概要

プログラムは通年、毎月1回実施する。各セッションは2時間。テーマに沿った活動と市場での買い物と昼食で構成されている。プログラム全体を通したテーマは「音楽・食・手仕事」であり、それに関連する内容で立案者がコーディネーターと相談しながら毎回の活動を決定する。セッション内容は、活動内容と時間配分を立案者とコーディネーターで調整している。

#### 2) 手続きと分析方法

参加者の行動は、研究協力者による観察と写真や動画の撮影により記録される。観察結果は、テキストデータと画像により蓄積され分析される。参加親子の観察されるポイントは、①プログラムへの参加の程度、②プログラムの立案への参加の程度、③市場での買い物のさいのコミュニケーションへの参加の程度、④プログラム外での市場への参加の程度である。学生について観察されるポイントは、①プログラム立案・計画への参加の程度、②プログラム実施への参加の程度、③プログラム実施中の市場でのコミュニケーションへの参加の程度、④プログラム

外での市場や大學堂の活動への参加の程度である。観察者は、臨床心理士と人類学を専門とするフィールドワーカーであり、プログラム準備段階から参加観察を行う。

#### 4. 研究成果

##### 1) 本プログラムの特徴

これまで実施されてきたソーシャルスキル・トレーニング (social skills training ;SST) は医療分野での SST と教育分野での SST に大別することができる。本研究では、それらの SST とは違う理論的背景をもったソーシャルスキル習得のためのプログラムを提案している。そのプログラムをこれまでの2分野での SST と比較するために市場の SST と呼び、それらの違いを検討したい。Table1 に比較のポイントをまとめた。

市場の SST は、ソーシャルスキルの本来的な習得プロセスに立ち返り、状況的学習による習得を促すことを目的としている。医療や教育分野での SST では、ソーシャルスキル習得を困難にする要因として、個人の疾患や障害、パーソナリティーなどの要因に注目している。そのため、その脆弱性に配慮し、守られた環境でスキルを習得し、習得したスキルの日常へ般化するという手続きを取っている。それに対して市場の SST では、コミュニケーションを実践する場面の減少という社会的要因に注目し、さまざまな実践場面に誘導し実践の機会を提供することを目的としている。ソーシャルスキルが不足している現状を個人の脆弱性に原因を求めるのではなく、環境の問題として捉えているところに大きな特徴がある。

また、未就学児とその保護者を対象としているが、プログラムでソーシャルスキルの習得が期待されているのは、その両方である。核家族化が進み孤立しがちな都市部の子育て世代にとって、ソーシャルスキルを高め、サポートを受けやすくすることは、メンタルヘルスの維持のために重要である。また、幼児期は、自己や他者に信念、知識、好みなどの直接観察できない心的状態を帰属させる能力である心の理論が発達する時期である。さらに、目標達成のために行動や思考を計画・調整しコントロールする機能の総称である実行機能が大きく発達するのも幼児期とされている。このような時期に多世代とのコミュニケーションの実践に参加することは、その後のソーシャルスキルの習得や社会性の発達に望ましい影響があると考えられる。

ソーシャルスキルは、地域社会で日常的に実践されているコミュニケーションの場面に参加するなかで、状況的学習によって習得されるものである。市場の SST のように、コミュニケーションの実践に参加しやすい環境を提示することによって、ソーシャルスキルの習得を促進することは、多くの参加者にとって無理のない習得方法ではないかと考える。このプログラムでは、意図的に準備されたロールプレイにより望ましいソーシャルスキルの型を学習するのではなく、実際に市場の中で実践されるコミュニケーションに参加することでソーシャルスキルが学習されている。このように日常的な場面で身につけたスキルは、他の日常場面への般化も容易だと考えられる。このプログラムでは、状況的にソーシャルスキルを学習する方法も同時に学習していると理解することができる。状況的学習によってソーシャルスキルを習得する場面は、日常生活の端々にあり、その方法を身につけていれば、日常生活の中で独自に学習することができる。すなわち、プログラムを通して身につけたスキルの般化だけではなく、習得方法も般化することができるプログラムである。

Table1 従来のSSTとの比較

	医療のSST	学校のSST	市場のSST
対象	疾患や脆弱性のある個人	学級・学校全体	一般の親子
場所	医療施設内の固定した部屋	教室・体育館など校内	市場の中の店舗
実施場所への外部者の出入	なし	なし	あり
実施中の外部との交流	なし	なし	あり
手続き変更の可能性	ほとんどなし	学級の状況により 変更可能	あり
理論背景	認知行動療法	認知行動療法 (SGEと類似)	状況的学習理論
ターゲットスキル	メンバーが提案 リーダーが決定	教師が提案・決定	設定しない
教示	端的・明確に なされる	明確に なされる	教示しない
モデル	主にメンバーが 提示	主にリーダーが 提示	意図的には 提示しない
予定外の出来事	起こらない ように配慮	起こらない ように配慮	起こることが 前提

##### 2) 状況的学習による参加者のソーシャルスキルの変化

###### ①親子関係の変化

買い物で親は、子どもが市場の中を歩いても店舗や他の客に迷惑をかけない様子やそれほど遠くへは行かないことを観察し、目を離す加減を学習している。市場での買い物は、それぞれの店で店主と会話し、支払いをし、商品を受け取る。子どもの手をつないだまま全てを行うことはできず、手を離すことが必要である。どのくらい手を離していいか、目を離していいかを学ぶことは、安心して市場で買い物をするためには必要なスキルである。

また、プログラム後の遊びの場面では、子どもたちがお互いに関係を作り、一緒に遊べるようになるのと平行して、親は子どもへの介入を減らしていき、親同士でのコミュニケーションを増やしている様子がうかがえた。本プログラムでは、このような行動の変化を起こすために、親への直接的な教示は行われていない。プログラムやその後の状況に参加しながら、子どもたちの様子や市場の商店主やプログラムのスタッフ、他の参加者といった他者のスキルを観察し学習されたと理解できる。

###### ②企画者が準備していない状況での学習

状況的学習を用いたソーシャルスキルの習得の利点として、企画者が意図して準備した学習

環境を越えた状況が出現することによって、想定外の変化がみられることにある。企画者が準備したものではない市場の店主からの働きかけにより、子どもがすでに習得しているスキル店主に対して般化し、親は子どもの発案に戸惑いながらも同意し、実行することにより新しい行動レパートリーを獲得した事例が観察された。このように、偶然の、しかも対面でしか起こりえない働きかけがなされることで、双方向的なコミュニケーションが展開し、子どもが主体となり行動が発現している。これは、企画者の働きかけを越えた行動であった。

### 3) 今後の課題

本研究では、これまでの SST とは当初の目的にあった 3 つの対象のうち、プログラムに参加していた学生のソーシャルスキルの変容について、十分なデータ収集と分析を行うことができなかった。また、プログラムについての広報活動が充分とはいえず、プログラムを運営するために十分な参加者をえることができなかった。これらの点が、今後の課題とされる。

#### 〈引用文献〉

- ① 西出 弘美・江守 陽子 (2011). 育児期の母親における心の健康度 (Well-being) に関する検討-自己効力感とソーシャルサポートが与える影響について- 小児保健研究, 70(1)20-26.
- ② 相川 充 (2010). きょうだい構成が子どものソーシャルスキルの程度に与える影響 東京学芸大学紀要, 61, 91-105.
- ③ Lave, J., Wenger, E. (1991). Situated Learning; Legitimate Peripheral Participation. (レイブ, J., ウィンガー, E. 佐伯胖 (訳) (1993). 状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加 産業図書
- ④ 竹川 大介 (2013). 北九州市小倉北区/町中の贅沢なひみつ「旦過市場」 地域開発, 588, 30-34.

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 1 件)

1. 命婦恭子・竹川大介 ソーシャルスキル・トレーニングの新しいストラテジーの提案 西南女学院大学紀要, 査読あり, 22, pp137-147 2017

〔学会発表〕 (計 2 件)

1. 命婦恭子 状況的学習を用いた子育て支援 日本保育学会第 69 回大会 2016
2. 命婦恭子・竹川大介 状況的学習を用いたソーシャルスキルトレーニングの実践報告 日本心理学会第 81 回大会 2017

〔図書〕 (計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

### 6. 研究組織

#### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：竹川大介

ローマ字氏名：Takekawa Daisuke

所属研究機関名：北九州市立大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：10285455

#### (2) 研究協力者

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。